

## 新杉田のびのび保育園「ビル内でも自然を感じられる環境構成」

という大見出しで日本教育新聞に掲載された記事の1部抜粋と写真を紹介します。

【子どもたちが「感じる」ことを大切に、「ドキドキ・わくわく」する気持ちや様々なものを不思議がったり、面白がったりする感性を育てたいと考えている、横浜市の(社福)あらぐさ会 新杉田のびのび保育園。ビルの中の階上園庭という厳しい条件の中、子どもたちが自然に触れて遊び込めるように環境構成を工夫している。JR根岸線・新杉田駅の目の前にある再開発ビル。その中に、新杉田のびのび保育園は入っている。



園内には園庭である広めの階上テラスがある。保育士たちは開園以来、「こうしたビルの中でこそ、子どもたちには自然が必要」と季節ごとに花を植えていたが、ある時、虫好きな4歳の男の子が「せんせい、はっぱ、いっぱいうえてよ。そうしたら、むしがいっぱいくるから。」

その言葉に心を動かされ、子どもたちが自然に触れて遊べるように「雑草プロジェクト」を開始。園長や職員が自宅から雑草を持って来たり、保護者にも協力を呼びかけてプランターに植えた。現在では、テラスに雑草を中心とした多種多様な植物があるのが当たり前となり、人工芝の隙間からも雑草が生えるほど。葉の裏についたバッタが持ち込まれたり、土の中にミミズがいたり、チョウが飛んできたりと自然環境が充実。子どもたちが自由に雑草を手にする中で、遊びに質的な変化が生まれた。幼児クラスの子どもたちは、テラスに図鑑を持ち出し「これは何だろう」「知りたい」と雑草や虫の種類を調べている。乳児クラスの子どもたちは、風に揺れる葉にそっと手を伸ばして葉の感触や匂いなど、「感じる」ことを楽しんでいる。

山中園長は、「虫を求めて花を抜いてしまう姿は『興味があるからとってみたい』という子どもたちの要求。『雑草プロジェクト』を通して、子どもたちが本当に望んでいることは何かを教えてもらった。『雑草プロジェクト』に取り組んだことで、たくさんの工夫が生まれた。ビルの中でも子どもたちが自然と関われる環境を作ることにはできる。限られた条件の中ではあるがこれからも環境構成の工夫を続けたい」と述べた。



### 訃報のお知らせ

40年前の社会福祉法人あらぐさ会創設にとってかけがえのない三人の方が、昨年今年と続いて亡くされました。ご功績のご紹介とあわせ、謹んでご報告申し上げます。

- 松本 秀男さん 2019年5月1日ご逝去(享年97歳)あらぐさ会の初代理事長を1979年から1998年まで務められました。
- 福寿 一雄さん 2019年11月25日ご逝去(享年91歳)わかば保育園の地主さんであり、先代の健一さんの跡を引き継いで、あらぐさ会の理事も引き受けていただきました。
- 松本 昭子さん 2020年1月27日ご逝去(享年93歳)1965年自宅を開放して「乳児の家わかば」を開設。無認可保育所を運営しながら子どもたちのより良い保育をめざして活動されました。1979年から1998年までわかば保育園初代園長を務められました。

### フクジュソウ(福寿草)



舞岡公園にて撮影

北海道から九州にかけて分布する春を告げる代表的な花です。元日草(がんにつそう)や朔日草(ついたちそう)の別名があります。花卉を使って日光を花の中心に集め、その熱で虫を引き寄せています。夏になると地上に出ている部分は枯れて翌春まで地下で過ごします。スプリング・エフェメラルと呼ばれる植物の典型です。

野原 遊



社会福祉法人あらぐさ会/わかば保育園・新杉田のびのび保育園・笹下保育園  
〒244-0813 横浜市戸塚区舞岡町992番地 Tel/Fax 045-443-5564  
あらぐさ会ホームページ <http://www.aragusakai.sakura.ne.jp/>

## 2020年2月号



今、地球温暖化の影響で、世界のあちこちで異常気象が起きています。若者やこれから生まれてくる人たちのことを考慮しない政治や経済に対するスウェーデンの16歳の少女グレタ・トゥンベリさんの発言と活動が世界中に共感をもって広がっています。オーストラリアでの森林火災では、おびただしい数の動物が逃げることができず、命を失っています。人間は自分たちが引き起こしたことに責任を持たなければいけないし、事態を変えることもできるはずですよ。

私は子育ての時に、猫の子育てに憧れました。猫は子どもを舐めて舐めて育てます。1匹でも姿が見えなくなると探し回り、自分のところに連れ戻し、子猫の排泄のあとを舐めて体を清潔に保ちます。遊びたくてじゃれてくる子猫には、嫌な顔一つせず尻尾で対応。私も欲しかった！子猫たちは子ども同士じゃれ合って遊びますが、子どものけんかに親猫は口(手?)を出さない。しかし、やがて子猫が大きくなると見事なほどに自立を促し、突き離します。“獅子の子落とし”というけれど、やっぱり猫はトラと同属のネコ科です。自分の力で生きていくことができるように、優しくも厳しい猫の子育てが私の理想でした。

私の子育てが思い通りに行ったかどうかはさておいて、生き物は、それぞれ環境を生き抜くための方法を億、万という時間をかけて作りあげてきています。他の生物の生態系を壊さないやりかたで。でも人間はどうでしょうか。地球を我がものと思って、地球がだめなら、火星にでも・・・など、とんでもない。人間は地球人としては新参者です。水の星地球はまさに奇跡のように生まれた星。すべての生き物にとってかけがえのない星。子どもたちが大好きな虫たちが、もしひとつもいなくなったら・・・！ そんな世の中では、私たち人間も生きていけません。大人の責任が問われています。その大人の中でも、後期高齢者に近づいてきている我が身としては、子どもや孫たちに“こんな世の中だけどあきらめて。後はよろしく!”とは言えません。まだやること、やらなくてはならないことがあります。

卒園、進級、卒業、就職など人生の節目になる時期に、みなさんそれぞれの想いや願いを大切に、幸多いことを心から願っています。

社会福祉法人あらぐさ会理事長 辻村久江

